反歌

勝鹿之、眞間之井見者、立平之、水挹家牟、手兒名之所念、

〔日本後紀二十嵯峨〕弘仁元年九月戊申、是夜、令左近衛將監紀朝臣清成、右近衛將曹住吉朝臣豐繼等射殺仲成於禁所、〔略〕○中民部大輔笠朝臣江人之女適仲成也、其姨頗有色、仲成見而悅之、〔略〕○下

〔三代實錄九清和〕貞觀六年八月三日丁巳、是日仁明天皇女御正三位藤原朝臣貞子薨、〔略〕○中貞子者、右大臣贈從一位三守朝臣之女也、風容甚美、婉順天至、仁明天皇爲儲貳、以選入宸宮、寵愛日隆、

〔三代實錄十二清和〕貞觀八年五月廿八日辛未、典侍從四位上藤原朝臣有子卒、〔略〕○中爲性婉順、儀貌閑雅、

〔三代實錄二十清和〕貞觀十三年九月廿八日辛丑、太皇太后崩、太皇太后、姓藤原氏、諱順子、贈太政大臣正一位冬嗣朝臣之女也、母尙侍贈正二位藤原朝臣美都子、后美姿色、雅性和厚、

〔三代實錄三十五陽成〕元慶三年三月廿三日癸丑、淳和太皇太后崩、〔略〕○中太后諱正子、嵯峨太上天皇之長女、與仁明天皇同產也、母太皇太后橘氏、后美姿顏、貞婉有禮度、存母儀之德、

〔三代實錄四十九光孝〕仁和二年十月廿九日甲戌、正二位藤原朝臣多美子薨、右大臣贈正一位良相朝臣少女、清和太上天皇之女御也、性安祥、容色妍華、以婦德見稱、

〔古今著聞集五和歌〕小野小町がわかくて色を好し時、もてなし有樣たぐひなかりけり、壯衰記といふ物には、三皇五帝の妃にも、漢王周公の妻もいまだ此おごりをなさずとかきたり、か、り〇かゝり（原脫、據一本補）ければ、衣には錦繡のたぐひを重ね、食には海陸の珍をと、のえ、身には蘭麝を薰じ、口には和歌を詠じてよろづの男をばいやしくのみ思ひくだし、女御后に心をかけたりし程に、十七にて母をうしなひ、十九にて父におくれ、二十一にて兄にわかれ、二十三にておと、をさきたてしかば、單孤無賴〇賴原作類、據一本改、のひとり人に成て、たのむかたなかりき、いみじかりつるさかへ、日ごとにおとろえ、花やかなりし貌、としく〜にすたれつゝ、心をかけたるたぐひもうとくのみな